

## 北陸地方西部における最近の地震活動について

## Recent Seismicity at the Western part of Hokuriku District

# 岡本 拓夫[1], 和田 博夫[2], 平野 憲雄[3], 竹内 文朗[4], 伊藤 潔[5], 西上 欽也[5], 渡辺 邦彦[6], 西田 良平[7]

# Takuo Okamoto[1], Hiroo Wada[2], Norio Hirano[3], Fumiaki Takeuchi[4], Kiyoshi Ito[5], Kin'ya Nishigami[6], Kunihiko Watanabe[7], Ryohei Nishida[8]

[1] 福井高専, [2] 京大防災研・上宝, [3] 京大防災研, [4] 京大・防災研・地震予知セ, [5] 京大・防災研, [6] 京大・防災研・地震予知, [7] 鳥取大・工・土木

[1] FNCT, [2] Kamitakara Obs., Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., [3] D.P.R.I Kyoto Univ., [4] RCEP, DPRI, Kyoto Univ., [5] Disas. Prev. Res. Inst, Kyoto Univ., [6] Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., [7] RCEP, DPRI, Kyoto Univ., [8] Civil Engi, Tottori Univ

<http://namaz.ge.fukui-nct.ac.jp/>

#### ・北陸地方西部域の特徴

北陸地方西部は、内陸部は白山に代表される火山と活断層の分布、沿岸地方は若狭湾に代表される入り組んだ海岸線と活断層の分布が特徴的である。地震活動に言及すると、近年でも福井地震（1948, M7.1）、大聖寺沖地震（1952, M6.5）、越前岬沖地震（1963, M6.9）等の被害地震の発生が知られ、微小地震活動においても福井地震断層に沿う余震群の線状配列が知られている。このような特徴の中で、地震活動と地帯構造の関連を調べていくことは、重要なことで、兵庫県南部地震（1995, M7.3）の発生以来指摘されている西南日本の地震活動との関連を考えると、重要な課題であることが分かる。北陸地方について、京都大学防災研究所北陸観測所のシステムが変更になった 1996 年以降、地震活動の再検測を行っている。その結果、2000 年 5 月以降特に若狭湾付近で地震活動が活潑になっていることを指摘した（岡本他, 2001）。最近、内陸部分でも地震活動の活発化が認められたので、講演ではその詳細を発表する。

#### ・地震群の特徴

2000 年以降発生した地震群を、MJHD (Furukawa and Imoto, 1992)を用いて再決定した結果、地震群の並びとメカニズムは合うが、地上の活断層等のトレースと合わないことを前回指摘した（岡本他, 2001）。本研究においても、同じ手法で解析を続けており、特に白山周辺での地震活動が活潑で、それらの地震群を解析した結果、前回と矛盾しないものを得た。

#### ・最近の地震活動

2002 年度になって、内陸部の活動が顕著になり、有感地震の発生も目立った。講演では、発生個数の変化も明らかにする予定である。特に後半部、福井、石川の県境付近での活動が顕著で、活火山である白山が存在することにより、地震活動の特徴と発生原因の考察が急務な課題になった。主要地震のメカニズムや、群発的活動になった地震群の再決定の結果、P 軸は東西から少し振ったものとなり、推定面の一つと地震活動の並びの一致は認められた。付近で有力な福井地震断層や、富樫断層の走向とは一致しなかった。2000 年以降若狭湾周辺や、最近では内陸部の地震活動が活潑になってきた。講演では、他の観測データと比較することにより、活発化の原因等も議論していく予定である。